

2018年3月期 決算説明資料

2018.5.10

TIS株式会社

Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

- ・おはようございます。本日は当社決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。
4月から担当となりましたTIS 安達です。これからよろしくお願いいたします。

2018年3月期 業績概要

2019年3月期 業績見通し

参考資料

・それでは、まず私の方から、2018年3月期業績概要および2019年3月期業績見通しについてご説明させていただきます。本日はこの後に、社長の桑野による新中期経営計画の説明が控えていますので、時間の関係から業績等については簡潔な説明とさせていただきます。

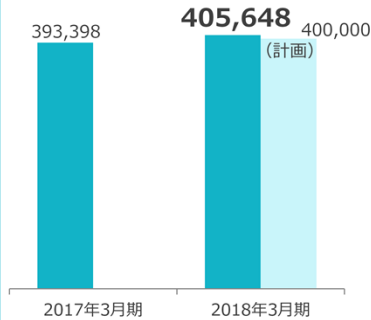
2018年3月期 業績ハイライト①

(単位：百万円)

・良好な事業環境を背景に、事業拡大や収益向上の取組み等により、前期比増収増益。計画過達。

売上高

- 前期比+12,249百万円 (+3.1%)
- 計画比+ 5,648百万円 (+1.4%)

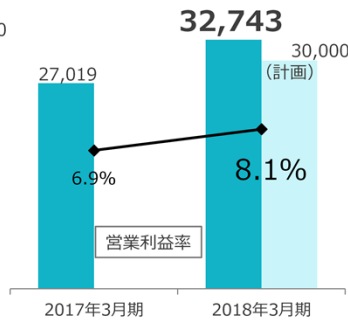


IT投資動向が強まりを見せる分野において顧客ニーズを的確に捉えたこと等が牽引し、前期比増収。計画過達。

Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

営業利益

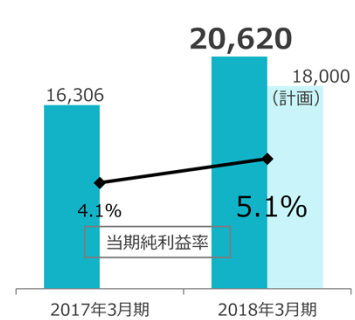
- 前期比+5,724百万円 (+21.2%)
- 計画比+2,743百万円 (+ 9.1%)



増収効果、不採算案件抑制を含む収益性向上に向けた取組みが、従業員の処遇改善や競争力強化に向けたコスト増を吸収し、前期比増益。計画過達。

親会社株主に帰属する当期純利益

- 前期比+4,314百万円 (+26.5%)
- 計画比+2,620百万円 (+14.6%)



主に営業利益の増加に伴い、前期比増益。計画過達。

3

- ・当期(2018年3月期)の通期業績の概要です。良好な事業環境の中で、売上高は4,056億円、営業利益は327億円で営業利益率も8.1%に向上、親会社株主に帰属する当期純利益は206億円と、いずれも前期(2017年3月期)を上回り、期初計画を過達する良い決算となりました。
- ・当社グループとしての最高業績であり、また、第3次中期経営計画における計数計画も達成しました。

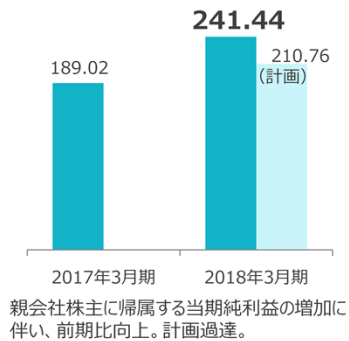
2018年3月期 業績ハイライト②

(単位：円)

・ROEは、収益性向上等に伴い前期比向上。期初試算を超過。

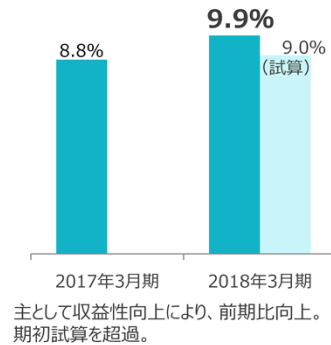
一株当たり当期純利益

- 前期比 +52.42円 (+27.7%)
- 計画比 +30.68円 (+14.6%)



自己資本当期純利益率

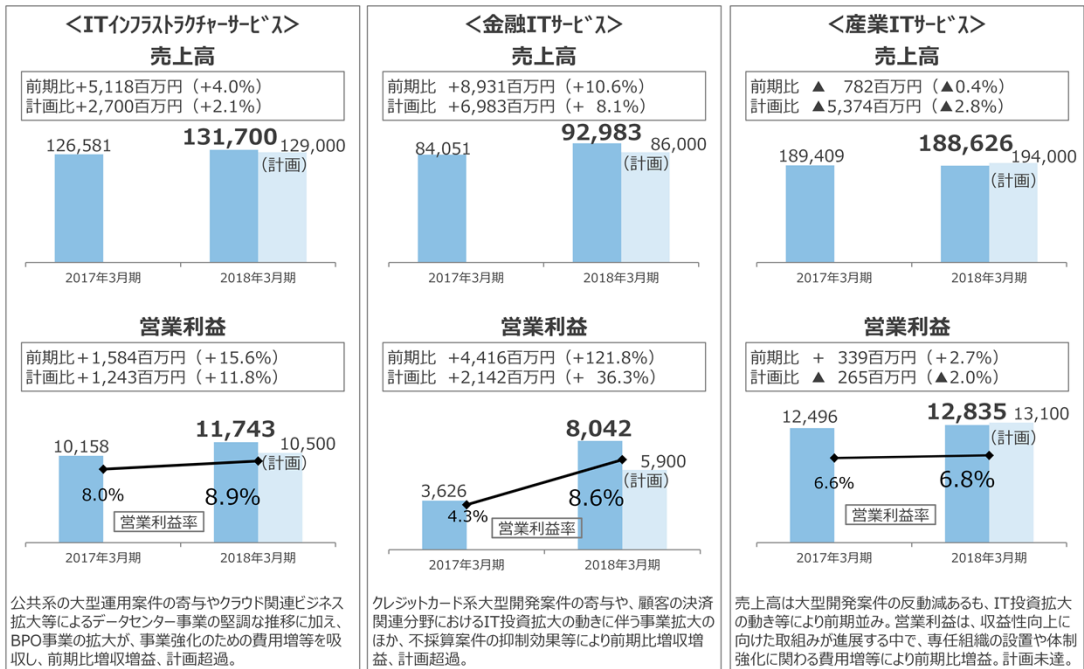
- 前期比 +1.1%
- 試算比 +0.9%



・ROEについても、2017年3月期の8.8%から1.1%上昇し、9.9%という結果となりました。

2018年3月期 主要セグメント別損益状況

(単位: 百万円)



Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

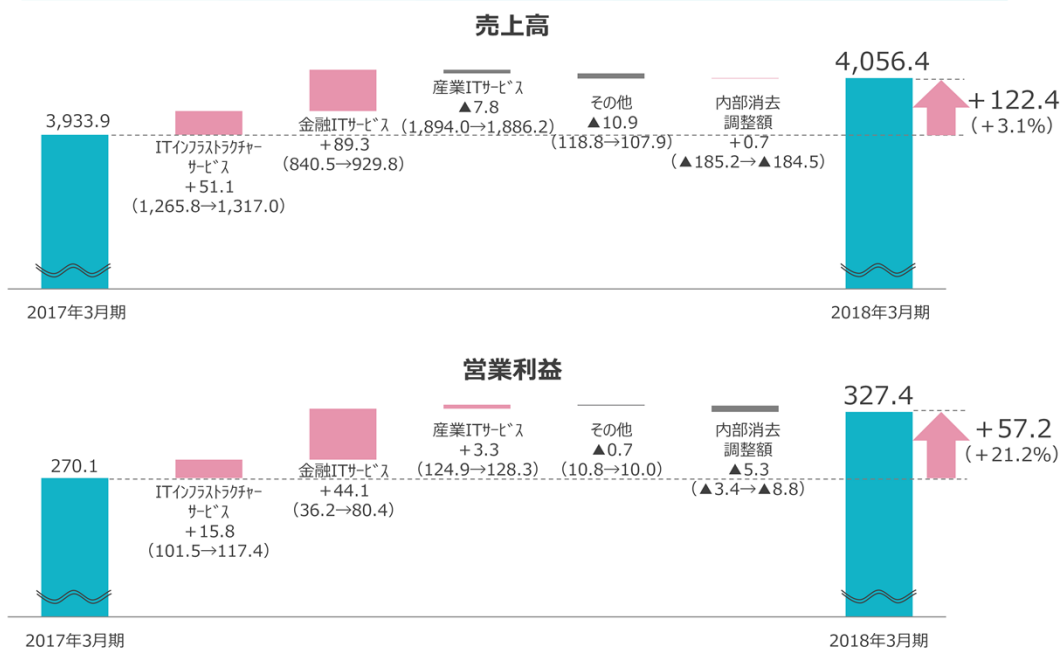
各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

5

- ・続いて主要3セグメントの損益状況です。
- ・ITインフラストラクチャーサービスと金融ITサービスについては、好調に推移し、前期比増収増益かつ計画超過となりました。ITインフラストラクチャーサービスについては、公共系の大型運用案件の寄与のほかクラウド関連ビジネスやBPOビジネスの拡大により、金融ITサービスについては、クレジットカード系の大型案件の寄与や不採算案件の抑制効果等に加えて根幹先の顧客における活発なIT投資が当社収益を大きく押し上げ、力強い着地となりました。
- ・産業ITサービスについては、上期の受注状況が弱かった影響のほか、競争力強化に向けた費用増等もあったことから、単年度としては、前期比でも計画比でも厳しい結果となりました。

2018年3月期 売上高・営業利益増減分析

(単位：億円)



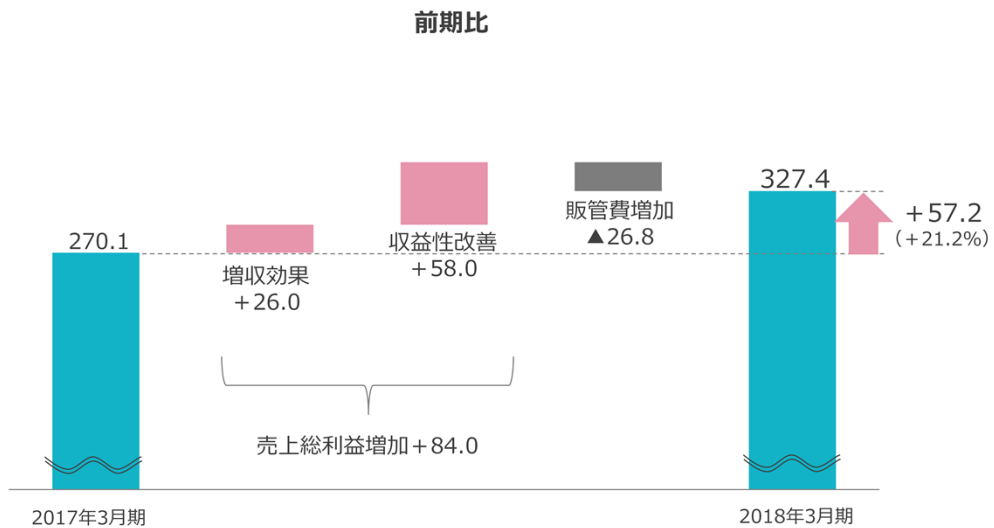
Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

6

(説明省略)

2018年3月期 営業利益要因別増減分析

(単位：億円)



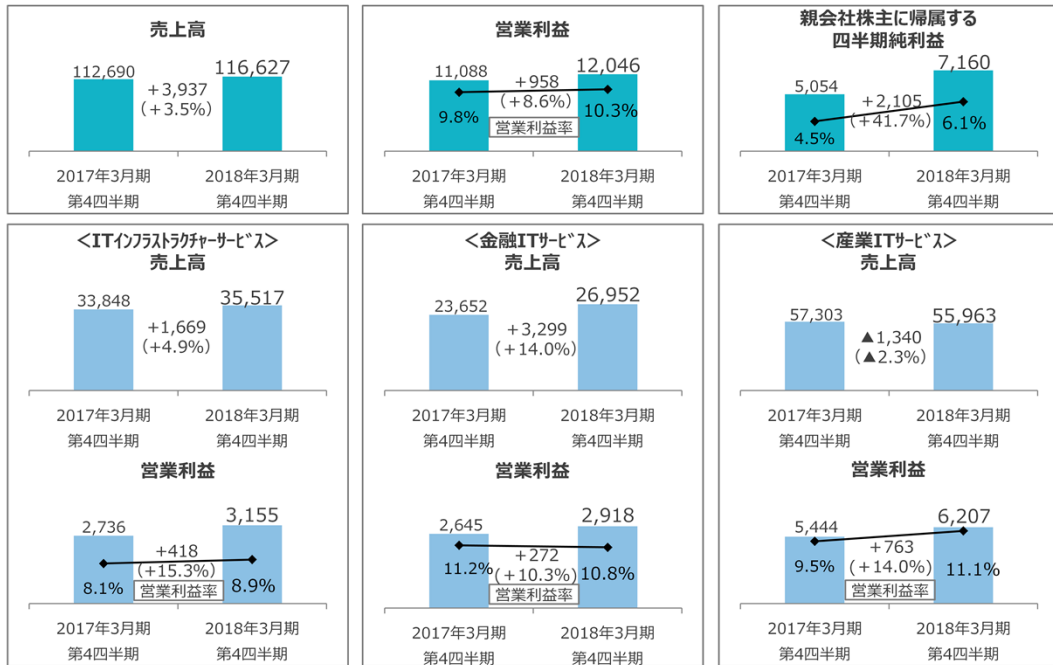
Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

7

- ・営業利益についての要因別増減分析です。
- ・前期に比べて、増収効果で26億円増加、収益性改善で58億円増加したことで売上総利益は84億円増加した一方、販管費が27億円増加した結果、営業利益は57億円の増加となりました。
- ・当期の不採算案件ですが、通期想定 of 20億円以内となる19億円弱という結果となりました。開発損失率でも0.9%ということで、想定 of 1.0%以内となり、生産性向上等とともに収益性改善に大きく寄与しました。
- ・販管費は、従業員の処遇改善やAI等の専任組織の設置、体制強化等、競争力強化に向けたコスト増を中心に27億円増加しました。中長期的な観点では必要なものと考えており、ご理解いただければと存じます。

(参考) 2018年3月期第4四半期 (1-3月)
業績ハイライト・主要セグメント別損益

(単位: 百万円)



Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

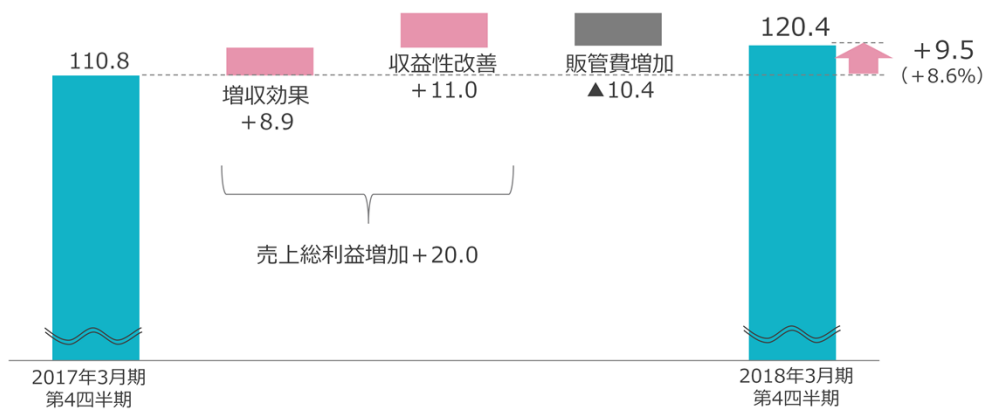
各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

8

(説明省略)

(参考) 2018年3月期第4四半期 (1-3月)
営業利益要因別増減分析

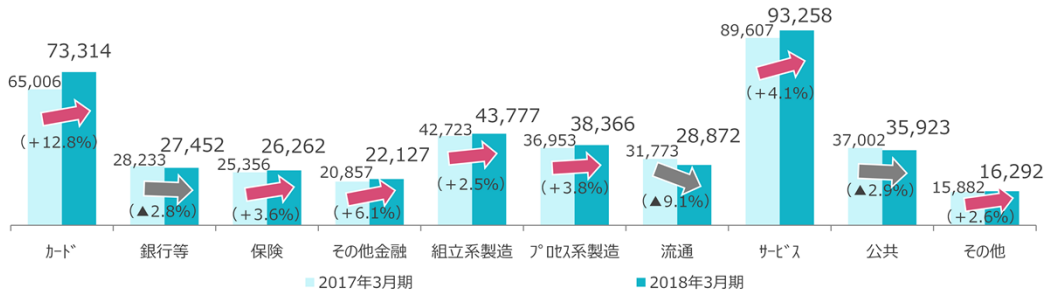
(単位: 億円)



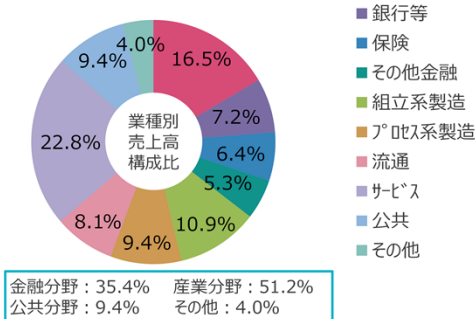
(説明省略)

2018年3月期 顧客業種別売上高

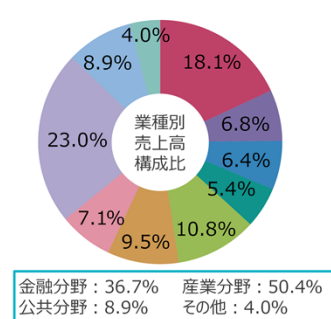
(単位：百万円)



<2017年3月期>



<2018年3月期>



Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

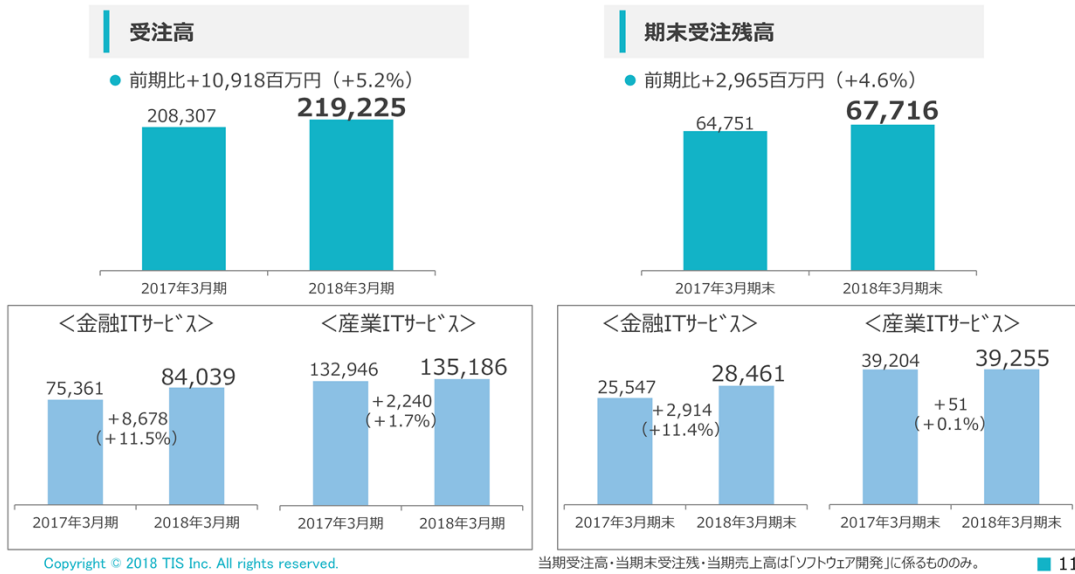
10

- ・顧客業種別の売上高の状況を示しています。
- ・当期は左側の金融系は、大型案件の寄与等でカードが好調だった一方、銀行は芳しくありませんでした。産業系では、製造業やサービスが好調だった一方、流通が厳しい状況でした。公共も前期比減少となっていますが、これは主に本年1月に終了した大型開発案件のピークアウトによるものです。

2018年3月期 受注状況

(単位：百万円)

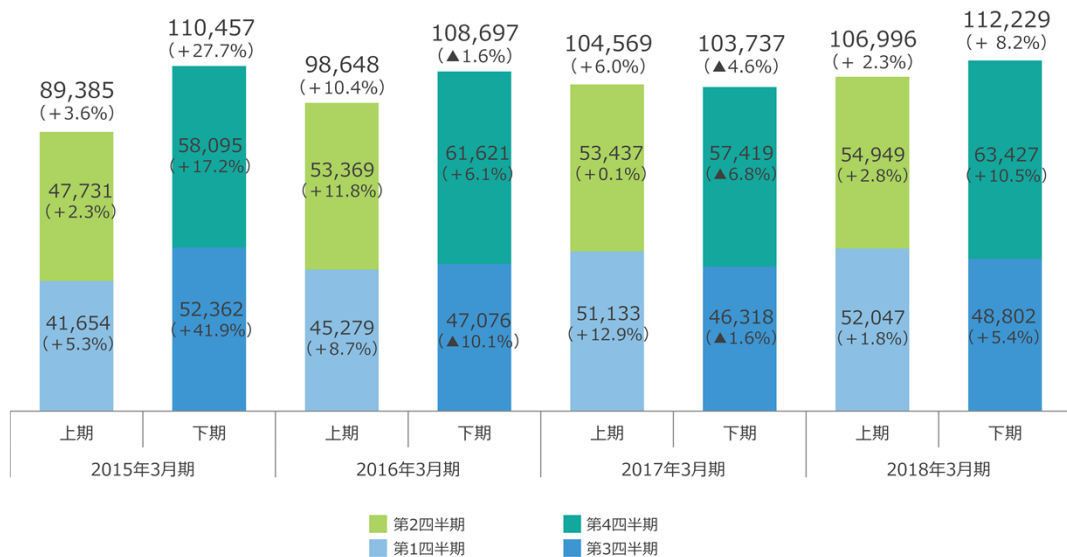
- ・当期受注高、期末受注残とも、大型開発案件の反動減等を吸収し、前期を上回る水準を確保。
- ・上期は低調だった産業ITサービスの受注高も下期に回復、通期では前期比増加。



- ・次に、受注状況についてご説明します。
- ・当期受注高は、大型案件に関する反動減がありながらも、全体では前期比5.2%増の2,192億円となりました。
- ・金融ITサービスはカード系が牽引し、11.5%増と好調に推移しました。産業ITサービスは大型案件の反動減等もあり、上期は前年同期並みと低調でしたが、第3四半期・第4四半期と力強さが出てきました。
- ・期末受注残高についても4.6%増となりました。過去に一括計上した公共系大型案件に関する受注残高の案件進捗に伴う減少が影響している旨は従前からご説明してきましたが、産業ITサービスにおいてこの影響をカバーできたことは来期に向けて力強さが出てきたといえるかと存じます。

受注高の推移

(単位：百万円)



Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

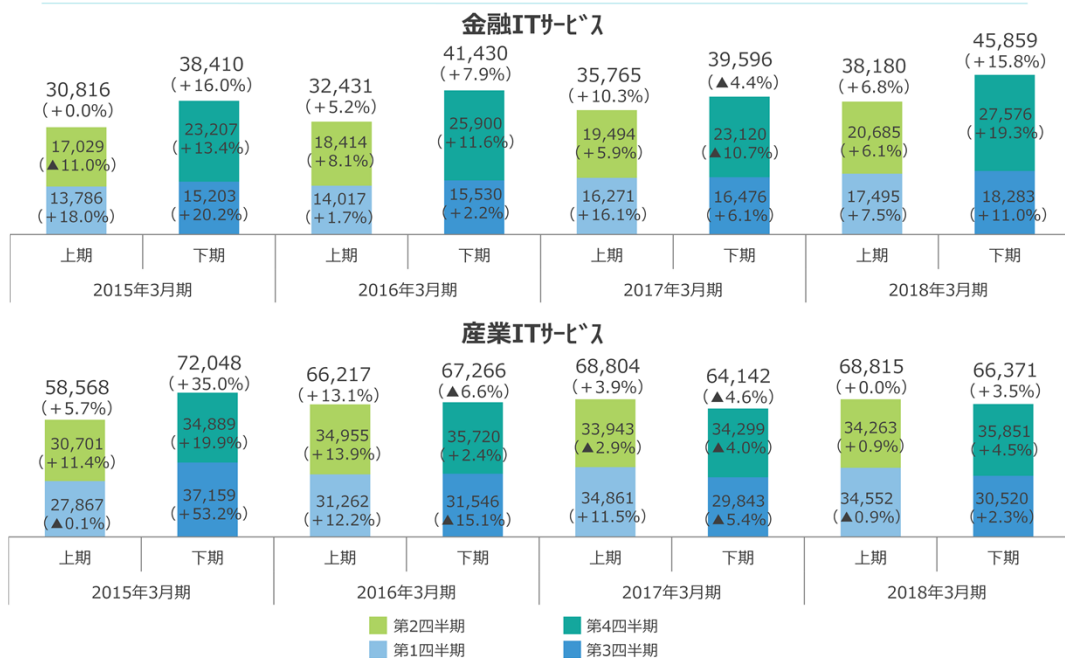
当期受注高は「ソフトウェア開発」に係るもののみ。カッコ内の数値は前年同期比増減率。

12

(説明省略)

受注高の推移

(単位: 百万円)



Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

当期受注高は「ソフトウェア開発」に係るもののみ。カッコ内の数値は前年同期比増減率。

13

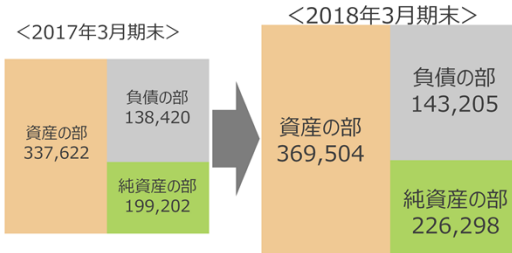
(説明省略)

2018年3月期 貸借対照表、キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

- ・総資産は、主に投資有価証券の時価増加等による影響で増加。
- ・政策保有株式や不動産等、資産圧縮の推進は継続。

貸借対照表の状況



●資産の部：+31,881百万円

- ・流動資産：+16,507百万円（現金及び預金 +11,895百万円 等）
- ・固定資産：+15,373百万円（投資有価証券 +14,610百万円 等）

●負債の部：+4,785百万円

- ・流動負債：+2,635百万円
- ・固定負債：+2,149百万円

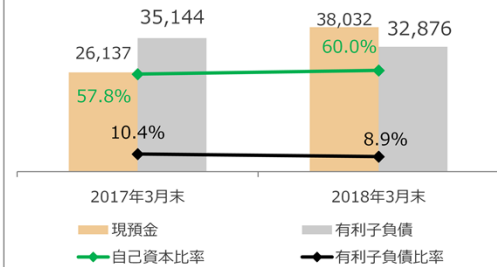
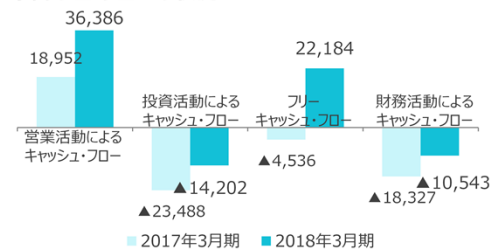
●純資産の部：+27,096百万円

- ・株主資本：+14,406百万円（利益剰余金 +17,452百万円 等）
- ・その他包括利益累計額：+12,174百万円
（その他有価証券評価差額金 +11,444百万円 等）

●自己資本比率：60.0%（+2.2%）

●有利子負債：32,876百万円（▲2,266百万円）

キャッシュ・フローの状況



Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

14

・2018年3月期の貸借対照表とキャッシュ・フローの状況は14ページのとおりです。期末時点ではネットキャッシュの状態となり、今後の成長投資等に振り向けていきたいと考えています。

・以上が、2018年3月期実績に関する説明となります。

2018年3月期 業績概要

2019年3月期 業績見通し

参考資料

(注) 2019年3月期から新マネジメント・アプローチの適用に伴い、セグメント区分を変更しています。

- ・続きまして、2019年3月期の業績見通しについてご説明します。
- ・なお、中期経営計画の方でもご説明させていただきますが、2019年3月期からセグメント区分を変更しています。また、運用等に関わる受注情報の開示も開始します。
- ・新セグメントベースでの2018年3月期の業績や受注状況は、25ページ・26ページに掲載していますので、後ほどご参照いただければと存じます。

外部環境の認識

- ・デジタル経営への志向を強める顧客のIT投資ニーズ拡大等を背景とし、事業環境は引き続き堅調に推移すると期待。
- ・産業構造の変化や働き方改革といった社会課題など、外部環境の変化を敏感に汲み取り、社会課題の解決をリードする企業に変革していくことが、ビジネスの成長に不可欠と認識。

サービスIT

- ✓ クラウドサービスの利用拡大の流れが継続。2020年にはクラウド調達が過半にも。
- ✓ 国内セキュリティ市場は2020年まで高成長継続、重要な経営課題化。
- ✓ 決済ビジネスの構造変化により幅広い業種でIT投資は高水準を継続。

BPO

- ✓ BPO事業は企業経営の改善に資する業務アウトソーシングビジネス需要が引き続き拡大基調。
- ✓ 長期化する人材不足、働き方改革推進による環境変化によるデジタルイノベーションニーズの拡大。

金融IT

- ✓ クレジットカードでは基幹システムの更新需要、決済ビジネスの構造変化への対応等、IT投資は引き続き高水準。
- ✓ 銀行・保険は景況感不透明も、業界大手中心に、ビジネスやサービスの革新を進めるためのIT投資は回復傾向。

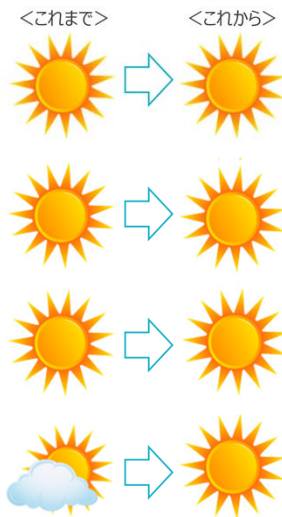
産業IT

- ✓ 製造・サービス・流通では、マーケティング関連分野等、競争力強化を目的としたフロント系のIT投資拡大が継続。
- ✓ 電力・ガスシステム改革のIT投資は、今後の分社化対応などの新たな需要により引き合い増加を期待。

Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

TISインテックグループの顧客動向も参考になっているため、一般の状況と異なる場合があります。

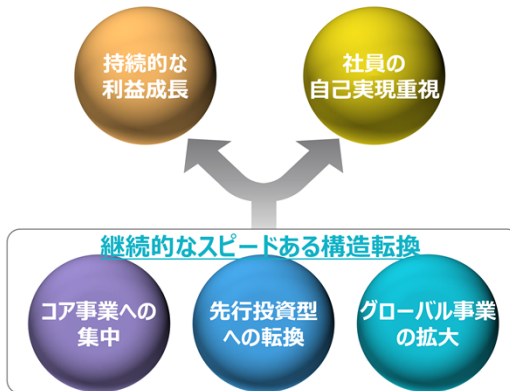
■ 16



- ・当社グループを取り巻く事業環境としては、引き続きデジタル経営への志向を強める顧客のIT投資ニーズ等を背景に、堅調に推移するものと期待しており、そうした点から全て「晴れ」マークをつけています。

2019年3月期 グループ経営方針

中期経営計画（2018-2020） 基本方針



Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

2019年3月期グループ経営方針

サービス型への転換に向けたスタートダッシュ

「スピード・柔軟性を重視した価値観・スタイル」「知識集約型の事業構造」を目指した構造転換を強力推進

新サービス創出のための積極的な先行投資

サービス型ビジネスを成長エンジンとすべく成長・得意領域へ重点投資

強みの活きる領域での付加価値・生産性の向上

得意分野、重点顧客ビジネスへの集中、不採算案件撲滅、エンハンスメント革新、良好な事業環境での受注採算性改善

ASEANトップクラスのIT企業連合体を目指した成長戦略の推進

グローバル戦略に基づき海外パートナーと年月をかけ築いた協働を土台とした事業領域拡大・戦略的投資の発展

働きがい向上と人材マネジメント強化

グループ成長の原動力である社員が活躍できる仕組み・風土の構築を目指し、人事マニフェスト施策の着実な遂行

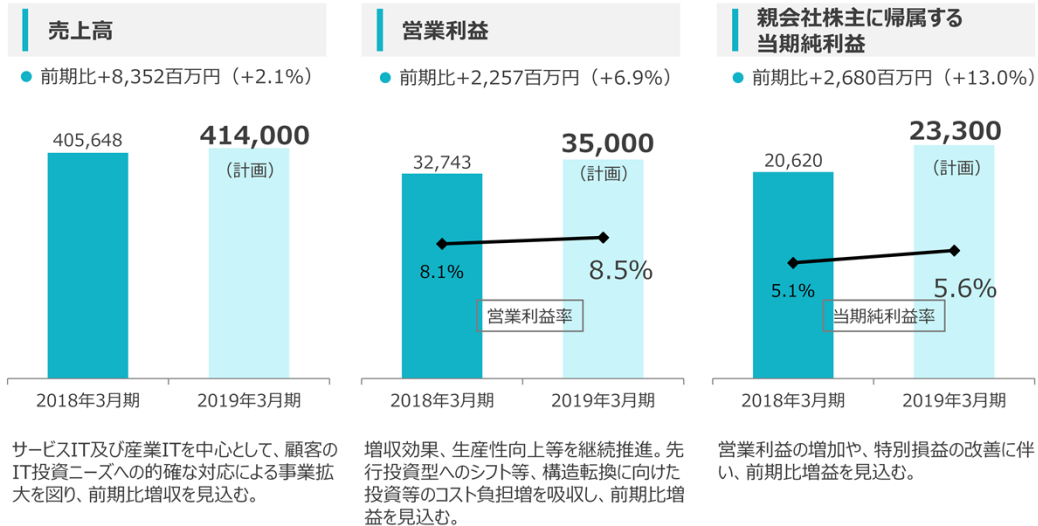
■ 17

こうした事業環境の中、当社グループでは、新しい中期経営計画の1年目となる2019年3月期にスタートダッシュをしていきたいと考えており、17ページ記載のとおり、グループ経営方針として5つを掲げて施策を推進してまいります。

2019年3月期 業績予想ハイライト①

(単位：百万円)

- ・堅調な事業環境の中、大型案件の反動減を吸収し、増収増益を目指す。
- ・新中期経営計画で掲げる構造転換を推進するため、成長・得意領域へ積極的な投資を実行。



Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

18

- ・2019年3月期の業績見通しについては、売上高は前期比2.1%増の4,140億円、営業利益は前期比6.9%増の350億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比13.0%増の233億円を計画しています。

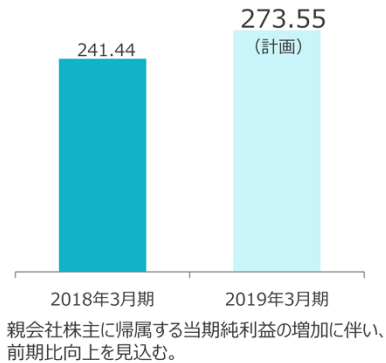
2019年3月期 業績予想ハイライト②

(単位：円)

・ROEは、初の10%超達成を目指す。

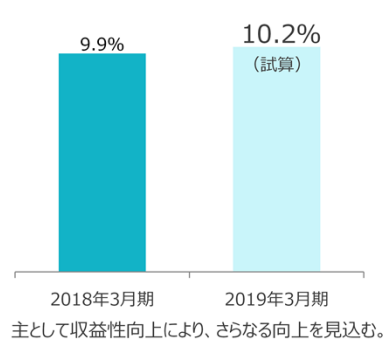
一株当たり当期純利益

● 前期比 +32.11円 (+13.3%)



自己資本当期純利益率

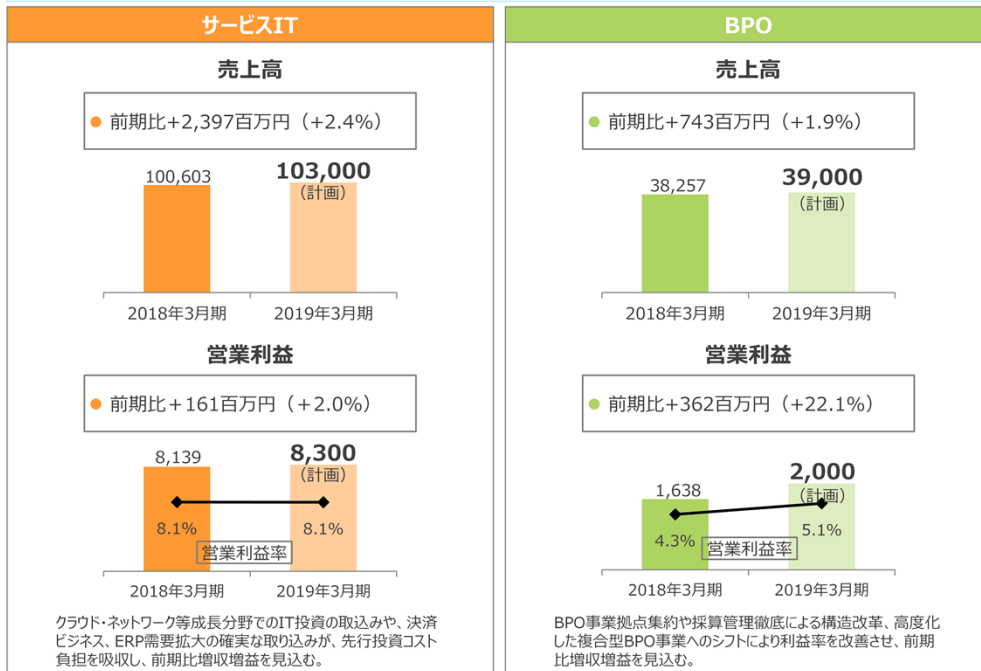
● 前期比 +0.3%



・また、19ページに記載のROEについても、我々としては初の10%以上の達成を目指す計画です。

2019年3月期 主要セグメント別損益状況（予想）

（単位：百万円）



Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

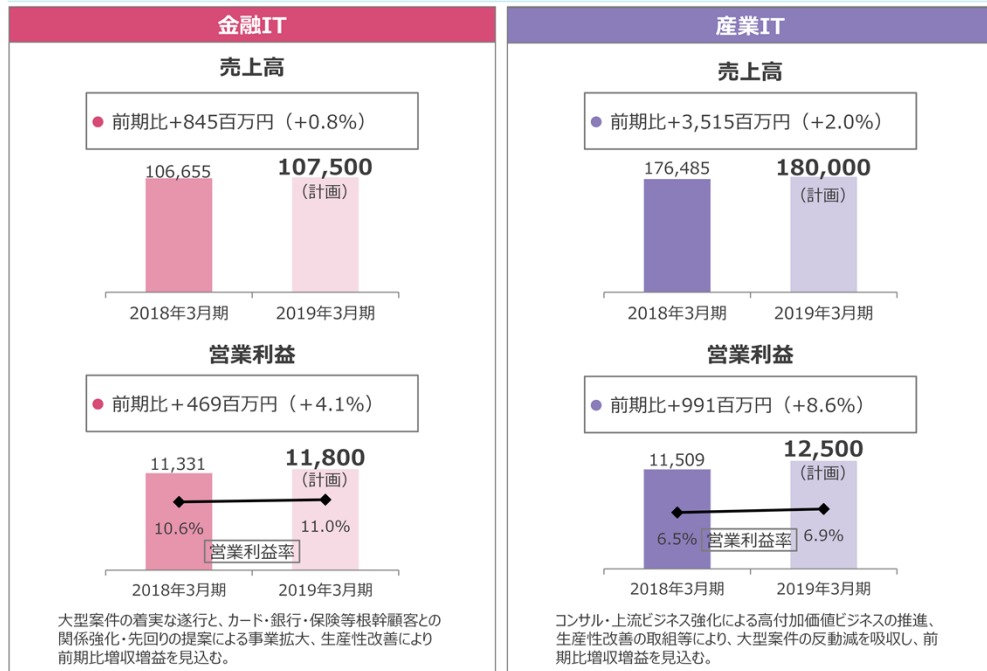
各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

20

- ・20ページ・21ページが新セグメントによる損益予想です。
- ・主要なセグメントは「サービスIT」、「BPO」、「金融IT」、「産業IT」の4つです。それぞれの状況に応じて強弱はありますが、前期比増収増益を計画しています。

2019年3月期 主要セグメント別損益状況（予想）

（単位：百万円）



Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

21

（説明省略）

2019年3月期 株主還元

中期経営計画（2018-2020）における株主還元の基本方針等

成長投資の推進・財務健全性の確保とのバランスをとりつつ、株主還元を強化。

これまで

- ・総還元性向35%を目途
（安定的な配当の継続 + 自己株式取得）



これから

- ・総還元性向 40%を目安
- ・配当性向 30%を目安（2021年3月期）
- ・自己株式保有5%程度を上限（超過分は消却）

1株当たり年間配当金

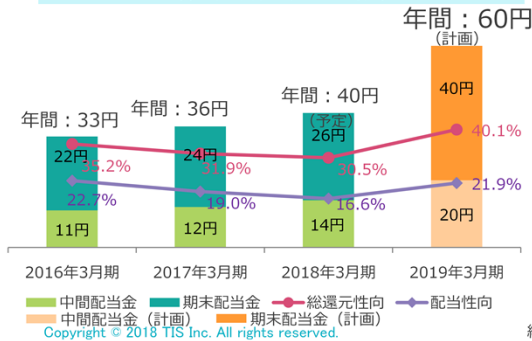
2019年3月期計画：60円(前期比+20円)

自己株式取得

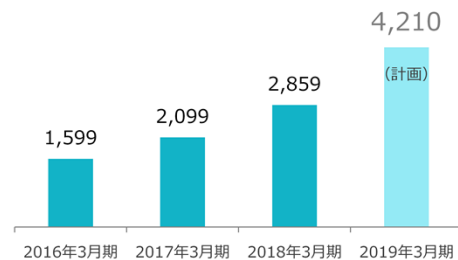
総額42.1億円（上限）*

*2018年5月10日発表の自己株式の取得内容

1株当たり配当金等の推移



自己株式取得総額の推移（単位：百万円）



総還元性向：純利益に対する配当と自己株式取得の合計額の比率

22

- ・最後に、2019年3月期の株主還元についてご説明します。
- ・株主還元の強化を図るため、新しい中期経営計画では総還元性向を引上げ、40%を目安とすることを基本方針としています。それに基づいて2019年3月期は1株当たり60円の配当と42億円の自己株式取得を行う予定です。
- ・配当性向を2021年3月期に30%まで引き上げる方針ですので、それに応じて、2019年3月期の1株あたり配当は、これまでの3-4円の増加を大きく上回る20円増ということにしています。
- ・以上で、私からの説明を終了させていただきます。

2018年3月期 業績概要

2019年3月期 業績見通し

参考資料

(説明省略)

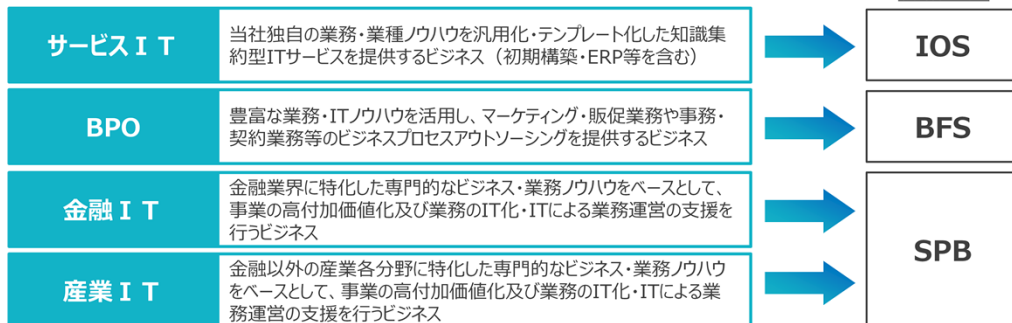
構造転換の推進に向けた開示セグメント変更

構造転換の推進に向け、当社マネジメント体制を変更し、「サービス事業統括本部」と「インダストリー事業統括本部」に組織改正。これに伴い、マネジメントアプローチの観点から開示セグメントを2019年3月期より変更。なお、運用等に関わる受注情報の開示も開始。

<セグメント変更の主なポイント>

- 「サービスIT」を事業単位とし、成長エンジンであるサービス型ビジネスへの構造転換を推進。
- 「BPO」を事業単位とし、業務ノウハウと先端技術活用を組み合わせたBPO高度化により事業推進。
- データセンター事業は、当社グループの幅広い事業を支えるIT基盤と位置付け各セグメントに包含。

<新開示セグメント>



※上記以外に「その他」セグメントあり。

Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

24

（説明省略）

2018年3月期実績・新セグメントベース(売上高及び営業利益)

(単位：百万円)

■ 売上高及び営業利益

旧セグメント	2018年3月期
売上高	405,648
ITインフラストラクチャーサービス	131,700
金融ITサービス	92,983
産業ITサービス	188,626
その他	10,791
内部消去等（差引）	▲18,453
営業利益	32,743
ITインフラストラクチャーサービス	11,743
金融ITサービス	8,042
産業ITサービス	12,835
その他	1,006
内部消去等（差引）	▲884



新セグメント	2018年3月期
売上高	405,648
サービスIT	100,603
BPO	38,257
金融IT	106,655
産業IT	176,485
その他	10,688
内部消去等（差引）	▲27,041
営業利益	32,743
サービスIT	8,139
BPO	1,638
金融IT	11,331
産業IT	11,509
その他	1,010
内部消去等（差引）	▲884

(説明省略)

2018年3月期実績・新セグメントベース（受注高及び受注残高）

（単位：百万円）

■受注高及び受注残高（ソフトウェア開発）

旧セグメント	2018年3月期
受注高	219,225
ITインフラストラクチャーサービス	—
金融ITサービス	84,039
産業ITサービス	135,186
旧セグメント	2018年3月期末
受注残高	67,716
ITインフラストラクチャーサービス	—
金融ITサービス	28,461
産業ITサービス	39,255



新セグメント	2018年3月期
受注高	219,225
サービスIT	42,757
BPO	—
金融IT	70,963
産業IT	105,505
新セグメント	2018年3月期末
受注残高	67,716
サービスIT	12,142
BPO	—
金融IT	23,324
産業IT	32,249

<ご参考>

■受注高及び受注残高（全体）

2019年3月期より、
運用等に関わる受注情報の開示を開始
（経過措置として半期毎に開示）

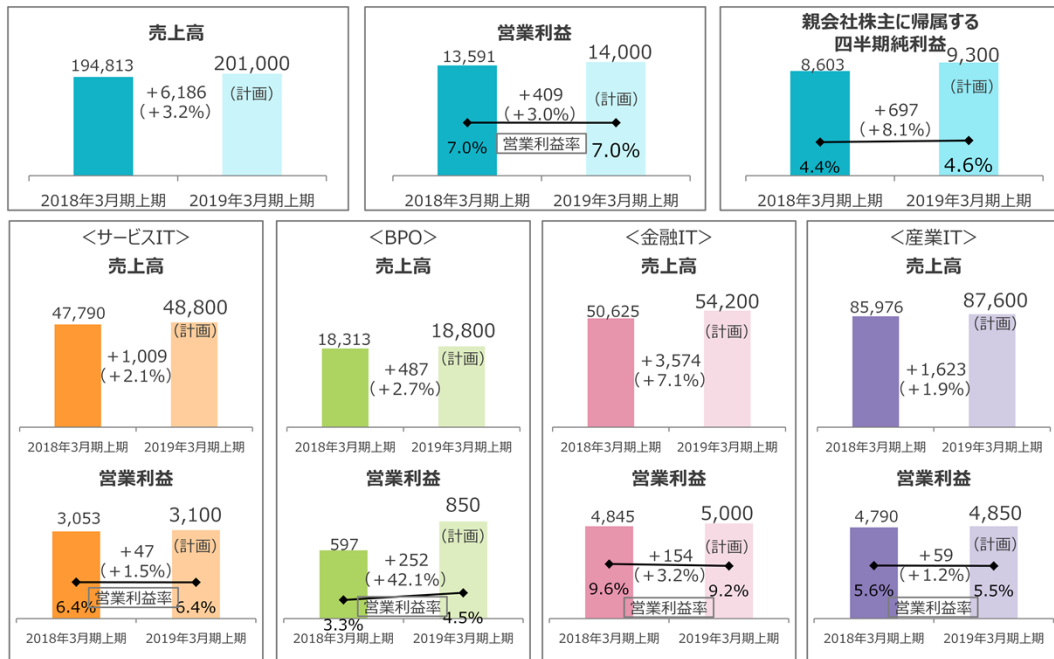
⇒ 受注残高 : 2018年3月期末～
受注高 : 2019年3月期第2四半期～

新セグメント	2018年3月期末
受注残高	122,067
サービスIT	30,693
BPO	—
金融IT	39,254
産業IT	52,120

（説明省略）

2019年3月期上期 業績ハイライト・主要セグメント別損益（予想）

（単位：百万円）



Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

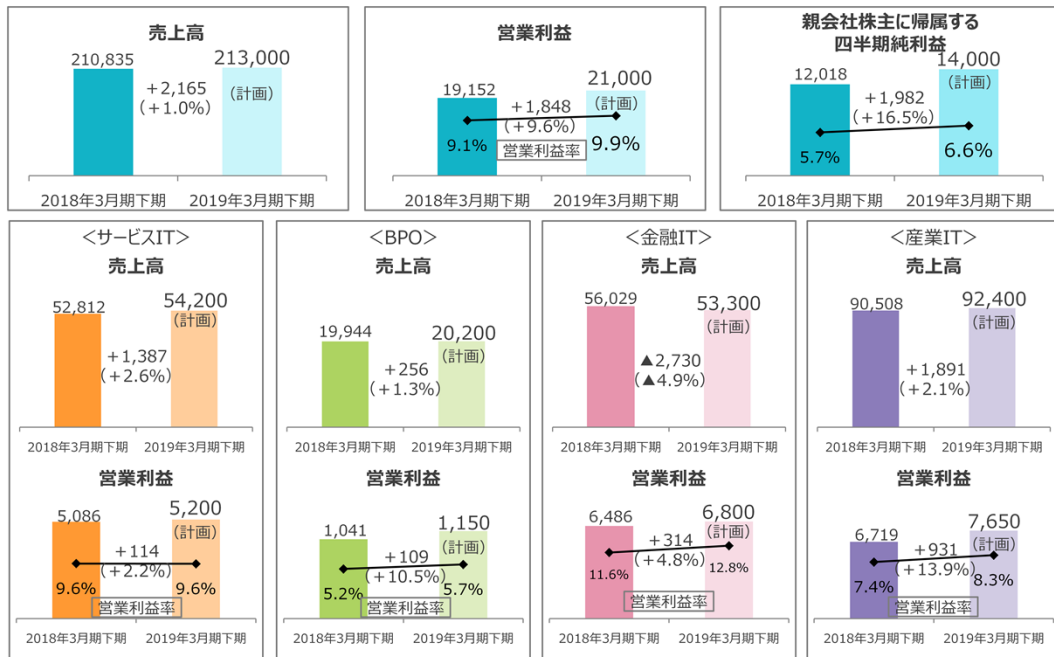
各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

27

（説明省略）

2019年3月期下期 業績ハイライト・主要セグメント別損益（予想）

（単位：百万円）



Copyright © 2018 TIS Inc. All rights reserved.

下期計画は通期計画から上期計画を控除したものです。
各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

28

（説明省略）

2018年3月期第4四半期 プレスリリース/お知らせ①

発表日付	タイトル
2018年1月4日	T I S インテックグループ 2018年年度所感
2018年1月4日	TISおよび連結子会社の人事異動のお知らせ
2018年1月5日	クオリカ、G P S 関連システムと通信機器の開発に強みを持つ株式会社データロンを子会社化
2018年1月9日	TIS、人材マネジメント基盤の構築と人材データ活用を支援する『Oracle HCM Cloud活用サービス』を提供開始
2018年1月10日	TIS、製造業向けソリューション『LinDo Applications』を提供開始
2018年1月10日	アグレックス、住所の表記方法に関わらず位置情報を取得するツール「AP-GeoMarker」をリリース
2018年1月11日	クオリカ、外食産業向け営業支援システム「TastyQube」のデリバリーECサイト自動連携機能（TastyQubeデリバリーモジュール）を上海で提供開始
2018年1月12日	マイクロメイツ、Windows10/Office2016/Office ProPlusへの移行・定着化支援サービスを提供
2018年1月22日	TISとリアルグループなどが「IaC活用研究会」を設立
2018年1月24日	TIS長野、生産・原価管理システム「mcframe」のエンジニアリングパートナー契約を締結
2018年1月30日	TIS協賛、三菱UFJリサーチ＆コンサルティング主催のアクセラレータプログラムの最終成果発表会を2月28日開催
2018年2月1日	連結子会社の人事異動のお知らせ
2018年2月2日	代表取締役および取締役の異動に関するお知らせ（インテック）
2018年2月2日	アグレックスの顧客常駐型オンサイトサービス子会社をTISソリューションリンクへ移管
2018年2月5日	TISおよび連結子会社の人事異動、機構改革のお知らせ
2018年2月5日	ガイアックスとネクスウェイ、犯罪収益移転防止法に準拠したKYC/本人確認業務の一連のプロセスにおけるAPI連携を2018年夏に開始
2018年2月6日	TIS、大阪市交通局公式アプリ「Otomo!」の会員管理システムなどの構築を支援
2018年2月6日	クラウド・スコープ・テクノロジーズ、ハイブリッドクラウドに対応した統合監視システム『Monarch 1.4』をリリース
2018年2月7日	企業向け研修トレーニングをeラーニング化した、自己学習用コンテンツ「マイクロメイツ かんたん自己学習 Office365/Office2016」販売を開始（マイクロメイツ）
2018年2月13日	TISとBeeXがクラウド事業拡大に向けて資本業務提携
2018年2月16日	凸版印刷とTIS、サイバーセキュリティ分野で協業
2018年2月19日	TIS、AWSの本格利用・大規模展開を支援する『金融業界向けAWS運用テンプレート』を提供開始

（説明省略）

2018年3月期第4四半期 プレスリリース/お知らせ②

発表日付	タイトル
2018年2月19日	クオリカ、高齢者見守りサービス「CarePAD」のサービス提供開始
2018年2月20日	A J S、化学物質管理システムをリニューアルし「A∞Fit-CHEMS」として提供開始
2018年2月21日	TIS、新規ガス小売事業者向けソリューション『エネLink GAS+』を提供開始
2018年2月21日	マイクロメイツ、『Microsoft Teams』の利活用促進のためのサポートサービスを提供開始
2018年2月21日	セゾン情報システムズとクオリカ、製造業向けのIoTプラットフォーム提供で協業
2018年2月22日	TIS、One to Oneデジタルマーケティングプラットフォームの導入を支援
2018年2月26日	A J S、ファイア・アイ ジャパンの「トップグロースパートナーオブザイヤー 2017」を受賞
2018年2月27日	「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」の導入に関するお知らせ
2018年2月27日	第三者割当による自己株式の処分に関するお知らせ
2018年3月1日	連結子会社の人事異動のお知らせ
2018年3月2日	インテックの「F3（エフキューブ）」とFRONTEOの人工知能「KIBIT（キビット）」を連携したデータ解析サービスを提供開始
2018年3月5日	連結子会社の人事異動、機構改革のお知らせ
2018年3月5日	『店舗matic/ Shopらん』の導入店舗数が30,000店舗を突破（ネクスウェイ）
2018年3月9日	連結子会社の人事異動、機構改革のお知らせ
2018年3月14日	インテックが東洋ビジネスエンジニアリングの株式を取得
2018年3月15日	連結子会社の人事異動、機構改革のお知らせ
2018年3月15日	TIS協賛の「MURCアクセラレータLEAP OVER」審査結果発表
2018年3月16日	TIS、スーパーストリームの「移行コンソーシアム」に参画
2018年3月16日	A J S、タレントとの協業によるデジタル面接プラットフォーム「HireVue」の提供を開始
2018年3月19日	三井住友銀行が、TISの与信管理ソリューション「SCORE LINK 海外版」の「英字決算書読取機能」を取扱開始
2018年3月23日	「指名委員会」及び「報酬委員会」の設置に関するお知らせ
2018年3月23日	TISとあくしゅが、共同開発した「インフラ運用テスト基盤」のβ版の提供を開始
2018年3月26日	TIS、スポーツ分野のアクセラレータプログラム『SPRING UP! for Sports』の参加企業の募集を開始
2018年3月27日	TIS、女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定の最高位を取得

（説明省略）

2018年3月期第4四半期 プレスリリース/お知らせ③

発表日付	タイトル
2018年3月28日	日本政策投資銀行が、TISの与信管理ソリューション「SCORE LINK海外版」の「英字決算書読取機能」を採用
2018年3月28日	インテック、UiPath株式会社とリセラー契約を締結
2018年3月29日	みずほ銀行の「みずほビジネスデビット」発行・運用システムに、TISの『DebitCube+』一部機能が採用

(説明省略)



<ロゴマークに込めた思い>

新たな挑戦の場を表現する「オーシャンブルー」と、堅実さと確かな技術の裏付けを表現する「インテリジェントグレー」の2色で表現されるロゴマークには、私たちのコアコンピタンスである『IT』2文字を包含しています。グループ各社が異なるエキスパートであり、その集合体としてのTISインテックグループの一体感、そして未来へ向かって進み続ける躍動感を表現しています。

<ブランドメッセージ「Go Beyond」>

現状に満足せず、常に新たなチャレンジを求めて「その先に向かって」歩み続ける。クライアントの課題をクリアするだけでは満足せず、クライアントのさらにその先にあるお客様のニーズを先取りして、「一歩進んだ提案をしていく」という当社グループの強い意思を表明しています。

(ご注意事項)

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、TISインテックグループ（TISおよびグループ会社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・各四半期会計期間（3カ月）の数値は累計期間の差引により算出しています。
- ・2019年3月期から新マネジメント・アプローチの適用に伴い、セグメント区分を変更しています。2018年3月期数値は変更後のセグメントに組み替えて算出したものです。

(説明省略)